

Kofax RPA

アップグレード ガイド

バージョン: 11.4.0

日付: 2022-11-18

© 2019–2022 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

はじめに.....	4
関連ドキュメント.....	4
トレーニング.....	5
Kofax 製品のヘルプの入手.....	5
第 1 章 : Kofax RPA 簡単アップグレードの基本.....	7
以前のバージョンからのアップグレード.....	8
一般的なアップグレードのガイドライン.....	8
Management Console のみをアップグレードする.....	9
新しいクラスタを作成する.....	10
アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する.....	11
古いクラスタを削除.....	12
重要.....	12
各プロジェクトの規模を常にコンパクトにする.....	12
RoboServer サービスのインストールのアップグレード.....	13
Document Transformation Service をアップグレード.....	13
Desktop Automation サービスの自動アップグレード.....	14
Kofax Analytics for RPA をアップグレード.....	15
プロセス検出アップグレードノート.....	15
アシスト入力から手動入力へのアップグレード.....	15
動的ライセンスの分配モードを有効にする.....	18

はじめに

このガイドは、エンタープライズ環境で Kofax RPA の既存のインストールを新しいバージョンへアップグレードするシステム管理者を対象としています。

関連ドキュメント

Kofax RPA のドキュメント セットには次の場所からアクセスできます。¹

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/RPA/11.4.0-vcsft2fhaw/RPA.htm>

このガイドの他に、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

Kofax RPA リリース ノート

その他の Kofax RPA ドキュメントからは入手できない最新の詳細やその他の情報が含まれています。

Kofax RPA 技術仕様

サポートされるオペレーティング システムおよびその他のシステム要件に関する情報が含まれています。

Kofax RPA インストール ガイド

Kofax RPA およびそのコンポーネントを開発環境にインストールする方法について説明します。

Kofax RPA 管理者ガイド

Kofax RPA での管理タスクについて説明します。

Kofax RPA のヘルプ

Kofax RPA の使用方法について説明しています。ヘルプは、『Kofax RPA ユーザー ガイド』という PDF 形式のドキュメントとしても提供されています。

Kofax RPA ロボット ライフサイクル マネジメントのベスト プラクティス ガイド

Kofax RPA 環境でロボット ライフサイクル マネジメントを使用しながらパフォーマンスを最適化し、成功を確実にするために推奨される方法とテクニックを提供します。

Kofax RPA ロボット構築スタート ガイド

Kofax RPA を使用してロボットを構築するプロセスを実行するためのチュートリアルを提供します。

¹ オンラインのドキュメント セットにアクセスするにはインターネットに接続する必要があります。インターネットに接続せずにアクセスする方法については、『インストール ガイド』を参照してください。

Kofax RPA Document Transformation スタート ガイド

OCR、抽出、フィールドの書式設定、検証などを含む Kofax RPA 環境の Document Transformation 機能を使用する方法について説明します。

Kofax RPA 開発者ガイド


RoboServer 上でロボットを実行するために使用される API に関する情報が含まれています。

Kofax RPA Desktop Automation サービス設定ガイド

リモート コンピュータで Desktop Automation を使用するために必要な Desktop Automation サービスを設定する方法について説明します。

Kofax RPA Application Programming Interface (Kofax RPA アプリケーション プログラミング インターフェイス) 文書

Kofax RPA へのプログラムでのアクセスを提供する Kofax RPA Java API および Kofax RPA .NET API についての情報が含まれています。Java API 文書は、オンラインおよびオフラインの Kofax RPA 文書から入手できますが、.NET API 文書はオフラインのみとなります。

 Kofax RPA API は、元の製品名である「RoboSuite」に対する詳細な参照を含んでいません。RoboSuite の名前は下位互換性を確保するために残されています。API ドキュメントの中では、RoboSuite という用語は Kofax RPA と同じ意味で使われています。

トレーニング

Kofax は、Kofax RPA ソリューションを最大限に活用するために、教室でのトレーニングとコンピュータでのトレーニングを提供しています。利用可能なトレーニング オプションとスケジュールの詳細については、<https://learn.kofax.com/> の Kofax 教育ポータルを参照してください。


また、<https://smarthub.kofax.com/> の Kofax Intelligent Automation SmartHub にアクセスして、追加のソリューション、ロボット、コネクタなどを見つけることもできます。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base \(Kofax ナレッジベース\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Base] にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [Kofax Web サイト](#) のホーム ページに移動して、[サポート] を選択します。
2. [サポート] ページが表示されたら、[カスタマーサポート] > [ナレッジベース] を選択します。

 [Kofax Knowledge Base] は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Base] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。

[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。

- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。

[Kofax Knowledge Base] のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。

ナレッジベースのホーム ページから、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。

ページ上部の **[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックします。

- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。

ページ上部の **[Support (サポート)]** リンクをクリックします。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。

- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。

ページ上部の **[Support]** リンクをクリックします。[Customer & Partner Portals Overview] が表示されたら、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。

- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。

[General Support (一般サポート)] セクションに移動して、**[Support Details (サポートの詳細)]** をクリックし適切なタブを選択します。

第 1 章

Kofax RPA 簡単アップグレードの基本

この章には、製品の以前のバージョンから Kofax RPA 11.4.0 へのアップグレードを実行する方法に関するベスト プラクティスおよび重要な情報が含まれています。

Kofax RPA 簡単アップグレードは、RPA インストールを最新の状態に保つのに役立ちます。RPA の最新バージョンには、データとそのユーザーを保護するのに役立つバグ修正、新機能、およびセキュリティパッチが組み込まれています。RPA のアップグレードによって日常業務が中断することではなく、現在のロボットは編集を行うことなく最新バージョンの RPA で実行できます。

新しいバージョンの Kofax RPA への移行を適切に実行するには、既存のバージョンがインストール済みのコンピュータにインストールすることを強くお勧めします。このアプローチにより、以前のバージョンを一定期間使用し続けて日々の作業を行いながら、新しいバージョンの製品の機能に慣れることができます。Management Console の新しいバージョンにロボットをインポートして実行できます。2 つのバージョンを並列に使用し、Design Studio 11.4.0 で以前のバージョンのデフォルト プロジェクトを開いてテストすることができます。デフォルトのプロジェクトをバージョン 11.4.0 で保存すると、以前のバージョンの Design Studio では開けなくなることに注意してください。

簡単アップグレードの実行手順

1. Management Console 構成をバックアップします。
2. 新しいデータベース インスタンスを使用して [Management Console の新しいバージョンをインストールします](#)。必要に応じてバックアップを使用して Management Console 構成を復元し、現在の RoboServer を接続します。
このステップで一時的に停止し、ロボットが Management Console の最新バージョンで実行されている間、時間をかけて Kofax RPA の新しいバージョンに慣れることができます。
3. [新しいクラスタを作成する](#)します。
4. [RoboServer サービス](#)と、[Document Transformation](#) や [Desktop Automation](#) など、その他のサービスをアップグレードします。
5. [アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する](#)
6. [古いクラスタを削除](#)

❗ Kofax RPA 環境で API を使用する場合、Kofax RPA のアップグレード時に Java および .NET ファイルを更新する必要があります。新しい API ファイルは、Kofax RPA インストール フォルダの API フォルダ: C:\Program Files\Kofax RPA 11.4.0.0\API にあります。

この章は、次のトピックで構成されています。

一般的なアップグレードのガイドライン

メジャー バージョンまたはマイナー バージョンから別のバージョンへのアップグレードの最適な処理方法については、[一般的なアップグレードのガイドライン](#) トピックをお読みください。

RoboServer サービスのインストールのアップグレード

RoboServer サービスの新しいバージョンにアップグレードする場合は、[RoboServer サービスのインストールのアップグレード](#) トピックをお読みください。

Document Transformation Service をアップグレード

新しいバージョンの Document Transformation Service にアップグレードする場合は、[Document Transformation Service をアップグレード](#) トピックをお読みください。

Desktop Automation サービスの自動アップグレード

[Desktop Automation サービスの自動アップグレード](#) トピックを読んで、Desktop Automation サービスを更新します。

RPA 向け Kofax Analytics のアップグレード

Kofax Analytics for RPA をアップグレードする場合は、[Kofax Analytics for RPA をアップグレード](#) をお読みください。

Process Discovery のアップグレード

Process Discovery アップグレードに関する注意トピックを読んで、使用している Process Discovery をアップグレードします。

アシスト入力から手動入力へのアップグレード

Kofax RPA 10.3.0 または以前のバージョンからアップグレードする場合で、また既存のロボットが Assisted Entry (アシスト入力) モードで SOAP Web サービスの呼び出しステップを使用している場合は、[アシスト入力から手動入力へのアップグレード](#) トピックをお読みください。

動的ライセンスの分配モードを有効にする

動的ライセンスの分配モードでは、RoboServer はリクエストごとにクラスタからライセンスを受け取ります。[動的ライセンスの分配モードを有効にする](#) トピックを読んで、動的ライセンスの分配モードをオンにします。

以前のバージョンからのアップグレード

10.x より前のバージョンからアップグレードする場合は、アップグレードのガイドラインについて Kofax サポートに相談してください。

10.3 から 10.3.0.9 までのいずれかのバージョンからアップグレードする場合、トリガー マッピングはバックアップで復元されません。次の場所にあるソリューションを使用してください。

https://knowledge.kofax.com/Robotic_Process_Automation/Troubleshooting/Trigger_Mappings_are_not_restored_with_Management_Console_backup

一般的なアップグレードのガイドライン

このセクションでは、製品のメジャー バージョンまたはマイナー バージョンから別のバージョンへのアップグレードの実行方法について説明します。例はバージョン 11.0 から 11.1 へのアップグレードを基にしていますが、情報の多くは、10.x バージョンから 11.x バージョンへのアップグレードにも当ては

まります。フィックス パックは累積的であり、通常、11.3.1 から 11.3.4 など、同じメジャー リリース内でアップグレードする場合、11.3.0 から 11.4.0 など、あるメジャー リリースから別のメジャー リリースにアップグレードする場合よりも簡単です。

i サービス パックまたはフィックス パックをインストールに追加するプロセスは、必要なステップが少ない場合があります。詳細については、サービス パックまたはフィックス パックのドキュメントを直接参照してください。

Kofax RPA をアップグレード時には、ビジネスに不可欠なロボットのテストと検証を常に推奨します。このトピックでは、ロボットが展開されたときに運用システムをアップグレードする方法を紹介します。

Kofax はすでに定義済みのロボット、タイプ、スニペット、マッピングなどと Kofax RPA の下位互換性があるため、実稼働システムをアップグレードする前に、テスト環境でロボットを検証することをお勧めします。Kofax RPA の新しいバージョンは、ロボット言語のセマンティクス、タイミング、Web サイト、自動化 API の互換性に微細な変更が導入される場合があります。それがロボットの望ましくない動作につながる可能性があります。一部の変更は、セキュリティを確保するために必要なサードパーティライブラリの更新、またはソフトウェアの機能強化と改訂が原因である可能性があります。

i Kofax RPA の以前のメジャー リリースの Management Console 設定、スケジューラ、クラスタ、およびログ データベースを新しいメジャー リリースで再利用しないでください。エラーが発生する可能性があります。同じメジャー リリース内でアップグレードする場合、フィックス パックの README で特に指定されていない限り、データベースの再利用は許容されます。

Kofax RPA で Oracle データベースを使用して分析データを収集し、新しいバージョンへのアップグレード中に同じデータベースを指定する場合は、データベース内のテーブルを手動で削除して作成する必要があります。データベース テーブルの作成の詳細については、『Kofax RPA のヘルプ』の「RoboServer ログ データベース」および「データベース テーブルを作成するためのスクリプト」のトピックを参照してください。

特定のバージョンの Kofax RPA から次のバージョンへの移行の手間を軽減するために、Kofax RPA では、一定期間にわたって同じインストール環境で複数バージョンの RoboServer を並列に実行することができます。そのようにして、テスト環境内で並行して検証しながら、既存のバージョンを引き続き使用して本番環境でロボットを実行できます。新しいテスト環境の結果に満足し自信が持てたら、本番環境で使用するために新しいバージョンに移行できます。

Management Console のみをアップグレードする


RoboServer をアップグレードせずに Management Console をアップグレードするには、Management Console から最新の機能を取得し、最新バージョンの RoboServer および Desktop Automation サービスを後でクラスタに追加する必要があります。

次の例では、Kofax RPA 11.0 から Kofax RPA 11.1 にアップグレードして、2 つの RoboServer を実行しています。**[Management Console] > [管理] > [RoboServer]** セクションで、新しくアップグレードした Management Console から 11.0 の RoboServer に正常に接続されていることに注目してください。

RoboServer

クラスタ	アクション	サーバー	バージョン
へ Production	⋮		
	⋮	172.18.71.28:50015	11.0.0.0
	⋮	172.18.72.27:50000	11.1.0.0

[管理] > [デバイス] セクションで Desktop Automation サービスを確認すると、このサービスが 11.1 の Management Console にシームレスに接続されていることがわかります。

 バックアップを使用して Management Console の設定を復元する場合は、すべての新しいデータベースを使用して新しいバージョンの Management Console をセットアップした後に、バックアップから Management Console の設定を復元してください。

新しいクラスタを作成する

次の手順として、アップグレードした RoboServer および Desktop Automation サービスを配置する新しいクラスタを作成します。

この例では、アップグレードした RoboServer を配置するために **Production110** という名前の新しいクラスタを作成しています。また、RoboServer の中の 1 つをアップグレードして、このクラスタに配置しています。

RoboServer

クラスタ	アクション	サーバー	バージョン
へ Production	⋮		
	⋮	172.18.72.27:50000	11.0.0.0
へ Production110	⋮		
	⋮	172.18.72.07:50000	11.1.0.0

同様に、RoboServer バージョンに合わせていずれかの Desktop Automation サービスをアップグレードして、このクラスタに配置しました。

i 新しいバージョンの環境をセットアップし、KCU ライセンスを使用する古いロボットを新しい RoboServer で実行する場合 (たとえば、10.3.2.2 の RoboServer を Management Console 11.2 環境に追加する場合) は、新しい Management Console に新しいクラスタを作成し、古い RoboServer ノードをそのクラスタに配置します。Kofax RPA のヘルプの「RoboServer」トピックにある「新しいクラスタの作成」を参照してください。

バックアップを使用して、Kofax RPA の新しいバージョンにアップグレードした場合、RoboServer の閾値のバージョンは自動的に更新されません。ロボットを確実に実行できるようにするには、[クラスタ設定] > [一般] > [閾値のバージョン] の順に移動し、手動で RoboServer の閾値のバージョンを指定してください。

アップグレードされたクラスタにプロジェクトを移動する

プロジェクトが最新のバージョンで動作することを確認した後に、新しいクラスタに移動します。このアクションでは、次のスクリーンショットのように、プロジェクトのスケジュールに紐づくクラスタを変更する必要があります。

スケジュール

検証済みのプロジェクトで、[スケジュール] に移動し、スケジュールの : コンテキスト メニューから [編集] をクリックします。[基本] タブで、[クラスタで実行] 設定までスクロールします。

The screenshot shows the 'Schedule' configuration window. The 'Basic' tab is active. The 'Run on cluster' field is highlighted with a yellow box and contains the value 'Production110'. Other fields visible include 'Jobs priority *' (Medium), 'Jobs timeout *' (10), 'Pre processing robot', and 'Post processing robot'.

サービス

新しいクラスタに移動するには、REST および SOAP サービスのサービス クラスタを変更する必要もあります。[管理] > [プロジェクト] に移動し、プロジェクトの : コンテキストメニューから [編集] をクリックして、[サービス] タブを選択します。[サービス クラスタ] リストで、新しいクラスタを選択します。

サービス クラスター

Production110

☐ プロジェクトでサービス クラスターのみを使用する

☐ REST/SOAP リクエストの認証

アクセス-制御-許可オリジン

古いクラスターを削除

すべてのプロジェクトが最新バージョンで実行されていることを検証し、すべての RoboServer および Desktop Automation サービスをアップグレードして新しいクラスターに配置した後に、古いクラスターを削除できます。

重要

以前のバージョンの RoboServer を含むクラスターでプロジェクトが実行されている場合、ロボットを編集するには、以前のバージョンの Design Studio を使用する必要があります。ロボットが開かれ、新しいバージョンの Design Studio で保存されるとすぐに、最新バージョンの形式に移行されます (Management Console のリポジトリで確認することで、ロボットのバージョン/形式を確認できます)。

ロボット					
	フォルダ	名前	タ...	プロジェクト名	バージ...
<input type="checkbox"/>	:	TrainingSchedule	robot	My Validated Project	11.0.0.0

リポジトリ内のロボットは、そのバージョンを明らかにします。

ロボットを最新バージョンの Design Studio で編集すると、以前のバージョンの RoboServer でロボットを実行することはできなくなります。そのため、ロボットを変更したい場合は、古いバージョンの Design Studio で編集するか、そのロボット (および同じプロジェクト内の他のロボット) が最新の RoboServer で動作するようにロボット (と同じプロジェクト内の他のロボット) を検証し、プロジェクト全体をアップグレードされたクラスターに移行する必要があります。

また、複数のバージョンの RoboServer が同じクラスター内で混在する場合は、ロボットを実行したときにバージョンが切り替わることがあります。

各プロジェクトの規模を常にコンパクトにする

上記の方法でアップグレードを行う場合、アップグレードを容易にするために各プロジェクトを作成する際は、それぞれ内容データを増やしすぎないように運用してください。

RoboServer サービスのインストールのアップグレード

このセクションでは、RoboServer サービスをアップグレードする方法について詳しく説明します。

次の手順を実行して、Kofax RPA の Linux インストールをアップグレードします。

1. RoboServer を手動で停止し、ロボットの実行が完了するまで待ちます (オプション)。
2. パッケージを更新します。
3. 新しい `roboserver.settings` ファイルの設定を変更します (オプション)。
4. コンピュータを再起動するか、`RoboServerService start` コマンドを使用して RoboServer を再起動します。

Linux で Kofax RPA アップグレードするときは、次のことに注意してください:

- パッケージをアップグレードすると、`/opt/Kofax RPA/` ディレクトリ内のすべてのファイルが置き換えられます。
- アップグレード手順を開始すると、`init.d` サービスが停止し、新しいバージョンに置き換えられます。サービスは、ロボットの実行が終了するのを待たずにすぐに停止します。ロボットの実行を中断させないようにする場合は、アップグレードする前に RoboServer を手動で停止します。
- 新しいサービス用に、新しい `roboserver.settings` ファイルが作成されます。新しいファイルは `/home/Kofax RPA/.Kofax RPA/<リリースバージョン>/Configuration/` で作成され、これは古いバージョンのファイルも同様です。つまり、新しいリリース用の新しいディレクトリが作成され、古い設定ファイルは古いリリース名のフォルダにそのまま残るようになります。`/etc/opt/Kofax RPA/RoboServer.conf` にある設定ファイルへのリンクは、最後にインストールされたリリースの設定ファイルを指します。
- 古い `roboserver.settings` ファイルの設定は新しいものに転送されません。これは手動で行う必要があります。

Document Transformation Service をアップグレード

Document Transformation Service をアップグレードするには、次のアクションを実行する必要があります。

- プログラムファイルとインストールされた IIS サービス (Kofax RPA Document Transformation サービスと Kofax RPA Document Transformation クライアント) をアップグレードします。プログラムファイルのアップグレードが必要なのは、Document Transformation Service が実行している同じコンピュータに存在する場合のみです。デフォルトでは、プログラムファイルは `C:\Program Files\Kofax DTS` にあります。
- プロジェクト、カスタム設定などの作成されたデータを移動します。

アップグレードする前に、Document Transformation フォルダのバックアップを作成します。それにはプロジェクト、オンライン ラーニング ファイル、および `Web.config` ファイルの調整などのカスタム

設定が含まれます。デフォルトでは、フォルダは C ドライブ (C:\Document Transformation) にあります。アップグレード時には、次の詳細を考慮することが重要です:

- 検証を待機している既存のバッチは、新しいバージョンでは機能しない場合があります。アップグレードを開始する前に、既存のすべてのバッチの処理を終了します。処理を終了していない場合、検証を待機しているバッチがアップグレード後に正常に処理されない場合があります。
- 既存のプログラム ファイルと IIS サービスを削除します。プログラム ファイルを削除するには、Windows のコントロール パネルから Kofax RPADocument Transformation をアンインストールします。EnableDocumentTransformationWindows スクリプトを使用して IIS サービスを作成した場合、作成された IIS アプリケーション プール、Web サイト、およびインストールされた Document Transformation Service フォルダを削除します。

i アンインストールした場合、Document Transformation サービス スケジュールの停止に失敗する場合があります。Kofax RPADocument Transformation をアンインストールする前にスケジュールを手動で停止します。

プログラム ファイルとサービスを削除した後、新しいバージョンの Document Transformation Service のインストーラーが使用できます。その後、適切な EnableDocumentTransformationWindows スクリプトを使用して、新しいサービスをインストールします。

- カスタム設定をサービスに手動で再適用します。古い設定ファイルはサービスと互換性がない可能性があるため、コピーアンドペーストは避けてください。
- 組み込みの標準プロジェクトにカスタム構成を手動で再適用します。それ以外の場合は、古いプロジェクトに新しい名前を付けて、新しいバージョンで引き続き使用できます。

Desktop Automation サービスの自動アップグレード

バージョン 10.7 以降、[パッケージをロック] オプションが Desktop Automation サービス ウィンドウの [Windows] タブで選択されていない場合、Desktop Automation サービスの新バージョン パッケージは自動的にインストールされます。最初に新しいバージョン Management Console (または直接接続が使用されている場合は Design Studio) が Desktop Automation サービスへ接続を試みると、新しいサービス バージョン パッケージがインストールされます。ZIP ファイルのパッケージは、自動化されたコンピュータの C:\ProgramData\Kofax RPA にインストールされます。Kofax RPA コンポーネントのバージョンに応じて適切なパッケージが自動的に選択されます。詳細については、『Kofax RPA のヘルプ』の「Desktop Automation サービスの設定」トピック、または『Desktop Automation サービス設定ガイド』の「Windows タブのオプション」を参照してください。

Desktop Automation サービスの自動アップグレードは、Kofax RPA バージョン 10.2 以降でサポートされます。バージョン 10.7 以降は、インストール直後にこのモードをサポートします。バージョン 10.2 から 10.6 で自動サービスアップグレードを使用するには、Kofax RPA のコピーを少なくとも以下のバージョンの 1 つへ更新します:

```
10.2.0.8
10.3.0.9
10.3.1.2
10.3.2.6
10.4.0.4
10.5.0.2
10.6.0.3
```


Kofax Analytics for RPA をアップグレード

Kofax Analytics for RPA 2.7 は、Kofax Insight 6.5 を使用するように設計されています。Kofax Analytics for RPA 2.7 の RPA ビューが変更されましたが、Kofax RPA の以前のバージョンの分析データベースとログ データベースを使用できます。

Process Discovery ビューは変更されており Kofax RPA 11.4.0 にある Process Discovery により集められ分析されたデータでのみ有効です。

Kofax Insight のアップグレードについては、『Kofax Insight インストール ガイド』にある「Insight のアップグレード」の章を参照してください。アップグレードを実行する前に、Kofax サポートに問い合わせることもできます。

プロセス検出アップグレードノート

Process Discovery の最新バージョンにアップグレードするときは、次のことに注意してください。

一般的な **Process Discovery** のアップグレード ノート

- Process Discovery の新しいバージョンにアップグレードすると、以前のバージョンの Agent と Analyzer は削除されます。
- Process Discovery の新しいバージョンにアップグレードすると、Agent と Analyzer の設定は上書きされます。
- 一括エージェントアップグレードの場合、Process Discovery Agent のサイレント インストールは、*Kofax RPA Administrator's Guide* (Kofax RPA 管理者ガイド) のセクションにある Process Discovery Agent の展開で説明されているように使用します。
- Management Console を使用して、Process Discovery グループ設定を復元できます。Kofax RPA のヘルプにある Management Console のバックアップを参照してください。

Process Discovery Analyzer のアップグレードに関する注意

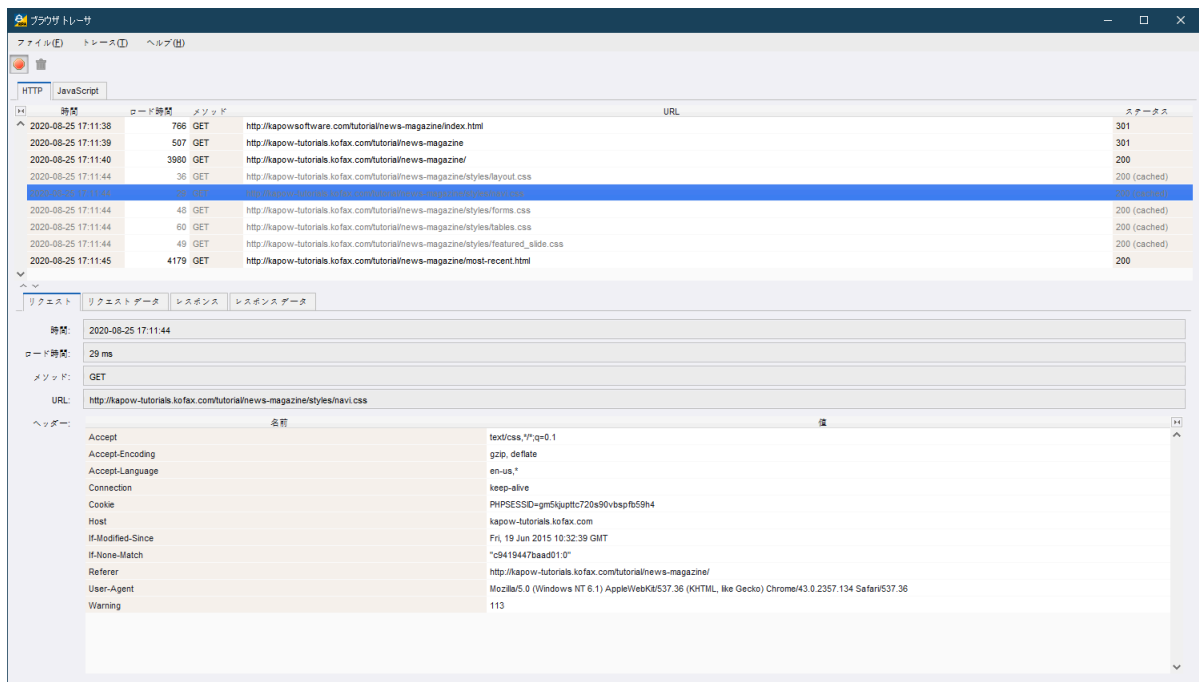
- Agent データベースは、Analyzer のバージョンと一致するようにする必要があります。
- アナライザー データベースは、アナライザーのバージョンと一致する必要があります。

アシスト入力から手動入力へのアップグレード

バージョン 10.3.0.1 以降、Call SOAP Web Service ステップは、Assisted Entry モードをサポートしていません。Kofax RPA の以前のバージョンからアップグレードする場合、以下の説明に従ってステップを更新します。

1. 以前のバージョンの Design Studio (10.3.0.0 など) でロボットを開きます。ロボットのコピーを作成して、バックアップがあること、およびアップグレードが容易であることを確認します。次の手順では、元のロボットをコピーしたロボット内部の実装ステップを更新します。
2. Design Studio でロボットのコピーを開き、「**SOAP Web** サービスの呼び出し」ステップまで実行し、入力モードを [手動入力] に変更します。

- 元のロボットに切り替えます。**SOAP Web** サービスの呼び出し のステップまで実行します。[ツール] メニューから、または F12 を押して、[ブラウザトレサ] を開きます。[ブラウザトレサ] で赤いボタンをクリックして、トレースの記録を開始します。
- その後のステップをクリックして、**SOAP Web** サービスの呼び出し のステップを実行します。
- 元のステップに指定された **Web** サービス URL がある場合、元のロボットのステップから更新されたロボットのステップにコピーします。それ以外の場合は、ブラウザトレサに表示されるものがそのロボット用であることを確認するために、エディターで元のロボットを選択します。ブラウザトレサで、単一の HTTP イベントエントリをクリックし、URL をコピーして、更新されたステップの **Web** サービス URL プロパティに貼り付けます。
- ブラウザトレサで、単一の HTTP イベント エントリをクリックし、[リクエスト] タブで **SOAP Action** というヘッダー プロパティを見つけます。ブラウザトレサは、次の例のようになります。



SOAP Action ヘッダーの値をコピーし、更新されたロボットに切り替えて、**SOAP Action** というプロパティに貼り付けます。値をコピーするには、リスト内のヘッダーをダブルクリックし、HTTP ヘッダーの表示 ダイアログボックスから値をコピーします。

- ブラウザトレサでイベントを再度検索し、[データの要求] タブをクリックし、要求のテキスト全体をコピーし、更新されたステップの **SOAP** 要求 プロパティに貼り付けます。
- 元のステップで使用されている WSDL ファイルを調べて、更新されたステップが正しい SOAP バージョンを使用していることを確認してください。この WSDL ファイル <http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/> というネームスペースを使用する場合、バージョンは 1.1 です。<http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/> というネームスペースを使用する場合、バージョンは 1.2 です。
- 更新されたステップの アウトプット、オプション、およびその他のプロパティの値が元のステップと同じであることを確認してください。

10. 更新されたロボットをテストし、保存します。Kofax RPA 10.4.0 で開いてテストします。
11. 以前のすべてのステップは、ステップ内のパラメーター値が静的である、つまり変数に依存しないと想定していました。ステップのパラメーター値が変数から取得される場合、静的な値の代わりに式を使用して **SOAP** 要求 プロパティの値を作成します。
 リクエストのコピーを取得することから開始します。オプションを **XML** から「エクスプレッションからのXML」に変更し、リクエストを **Expression** テキストフィールドに貼り付けます。これにより、エラーのある式が生成されます。これを修正するには、>> と << で囲みます。

動的プロパティ値

以前のすべてのステップは、ステップ内のパラメーター値が静的であると想定していました。つまり、それらのパラメーター値はハード コーディングされており、ロボットの実行中に変更されません。ステップのパラメーター値が変数から取得される場合、静的な値の代わりに式を使用して **SOAP** を要求 プロパティの値を作成します。

要求のコピーを作成することから開始します。オプションを **XML** から「エクスプレッションからのXML」に変更し、リクエストを **Expression** テキストフィールドに貼り付けます。これにより、エラーのある式が生成されます。二重の大なり記号と小なり記号 (>> <<) で要求を囲むことで修正します。

たとえば、パラメータ `zipCodeList` の値が `zipCodeList` と呼ばれる変数から取得される場合、>> << で囲まれた SOAP リクエストは次のようになります (詳細は省略)。

```
>><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soapenv:Envelope ...>
  <soapenv:Body>
    <ns1:LatLonListZipCode ...>
      <zipCodeList xsi:type="xsd:string">90210</zipCodeList>
    </ns1:LatLonListZipCode>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope><<
```

この例の `zipCodeList` パラメーターの値は静的で、90210 と同じになります。ハード コーディングされた値の代わりに `zipCodeList` 変数の値を使用するには、パラメーターの実際の値を次の形式の変数名に置き換えます。

```
<< + zipCodeList + >>
```

コード例は次のようになります。

```
>><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soapenv:Envelope ...>
  <soapenv:Body>
    <ns1:LatLonListZipCode ...>
      <zipCodeList xsi:type="xsd:string"><< + zipCodeList + >></zipCodeList>
    </ns1:LatLonListZipCode>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope><<
```

このプロセスを続けて、すべてのパラメーターを変数に置き換えます。

パラメーターが変数だけでなく式に依存する場合は、変数の代わりにその式を使用します。たとえば、パラメータが `x+1` のエクスプレッションに依存する場合、値を次のように置き換えます。

```
<< + (x+1) + >>
```

動的ライセンスの分配モードを有効にする

動的ライセンスの分配モードでは、RoboServer はリクエストごとにクラスタからライセンス ユニットを受け取ります。リクエストされた数のライセンス ユニットがある場合、RoboServer は、その数のライセンス ユニットを取得できます。このモードの場合、RoboServer は Management Console とのみ通信し、API 呼び出しなどの他のリクエストをブロックします。

i 動的ライセンスの分配モードでは、ライセンス ユニットが自動的に分配されます。これは `licenseLimit` パラメータよりも優先されます。

動的ライセンスの分配モードは Kofax RPA バージョン 10.3 以降で使用できます。バージョン 10.7 以降は、インストール直後にこのモードをサポートします。動的ライセンスの分配を使用するには、バージョン 10.3 から 10.6 で、Kofax RPA のコピーを少なくとも以下のバージョンの 1 つへ更新します:

```
10.2.0.8  
10.3.0.9  
10.3.1.2  
10.3.2.6  
10.4.0.4  
10.5.0.2  
10.6.0.3
```

i ライセンス分配モードをサポートしない RoboServer に対してライセンス分配モードを静的から動的に変更すると、これらの RoboServer は Management Console の [RoboServer] セクションに表示されなくなります。Management Console に表示されない RoboServer を確認するには、モードを静的に変更して、Management Console を再起動します。